

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18103002	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	東アジアにおける産業集積および企業連関の新展開と共生的持続性の研究	研究代表者 (所属・職)	平川 均 (名古屋大学・大学院経済学研究科・教授)

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A
	B
	C

(意見等)

本研究は、東アジアにおける産業構造変動を、産業集積・産業クラスターに焦点を当てて、それらの類型化を行い、その国際的連関にも視野を広げて新たな特徴と政策的含意を見出すことにある。とりわけ、産業集積をひとつの閉じた地域として見るのではなく、国際貿易や空間経済の理論的視点から、グローバル経済の中でその意義を再検討しようとしている。

また、理論および実証分析の両面で着実に成果を上げつつある。理論分析の面では、すでに多数の論文が主要な国際的学術雑誌に掲載されている。さらに関西、韓国、台湾、中国およびインドネシアにおける産業クラスター・企業連関・地域金融についてのアンケート調査が予定通り終了しており、その調査に基づく実証研究の結果の一部は、すでにいくつかの論文として公開されている。なお、国際会議の開催、中国の大学等との研究交流、研究会の実施等、研究は進展しつつある。一方、理論分析を実証分析と実質的・総合的に関連させ、東アジアにおける産業集積の形成と「共生的持続性」を説明する新しい枠組みを提示することが今後の課題である。また、現在進行中の世界金融・経済危機が東アジアの貿易と生産ネットワークに大きな影響を与えていることから、危機後の国際経済全体の大きな変化を予期するかたちで、研究全体の方向性を再検討されたい。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	本研究の目的である東アジアにおける産業構造変動の分析に関して研究進捗評価で示された内容は実現されており、理論および実証の両面で成果を挙げている。特に、産業クラスターが持つ特性として、アンケート調査などにより、イノベーションへの指向を明らかにしたこと、経済発展水準に応じた産業政策の特徴を総合的に国際比較したことなどの研究が実行された。加えて、国際的なネットワーク作りにも成果を挙げている。また、査読付き学術雑誌での掲載など多数の成果の公表も進んでいる。今後は、本研究で得られた成果を展開してさらなる研究成果が挙げられることを期待する。